

2006年度第3四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社
2007年1月30日



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2006年度 第3四半期 連結業績

■ 業績概要

	2006年度 第3四半期		2005年度 第3四半期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	7,165	100.0%	6,817	+348	+5.1
営業利益	10.2%	733	6.4%	437	+296	+67.9
構造改革費用		26		20	+6	-
営業利益	9.9%	707	6.1%	417	+290	+69.7
税引前利益	7.8%	556	6.8%	464	+92	+20.0
当期純利益	3.4%	246	4.0%	271	-25	-9.2
設備投資		334		337	-3	-0.8
減価償却費		491		521	-30	-5.7
研究開発費	6.0%	425	6.6%	449	-24	-5.5
為替:米ドル		118円		117円		+1円
ユーロ		151円		139円		+12円

■ 業績概要 2006年度 9ヶ月通算 連結業績 (単位:億円)

	2006年度 9ヶ月通算		2005年度 9ヶ月通算		増減	
					金額	%
売上高	100.0%	20,685	100.0%	19,853	+832	+4.2
営業利益	8.0%	1,661	5.6%	1,115	+546	+48.9
構造改革費用		446		98	+348	-
営業利益	5.9%	1,215	5.1%	1,017	+198	+19.5
税引前利益	5.4%	1,123	5.5%	1,099	+24	+2.2
当期純利益	2.3%	484	3.0%	602	-118	-19.6
設備投資		1,005		1,240	-235	-19.0
減価償却費		1,591		1,567	+24	+1.5
研究開発費	6.5%	1,331	6.9%	1,373	-42	-3.1
為替:米ドル		116円		112円		+4円
ユーロ		147円		137円		+10円

有形固定資産のみ。(ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く)

2

■ 構造改革の進捗

構造改革は順調に進展し、計画通り当年度に完了の見通し

2006年度第3四半期 構造改革費用

(単位:億円)

内容別内訳

	第3四半期	9ヶ月通算
資産関連他	13	299
人員関連	13	147
投資有価証券評価損 (営業外費用)	216	216
構造改革費用 計	242	662

事業セグメント別内訳

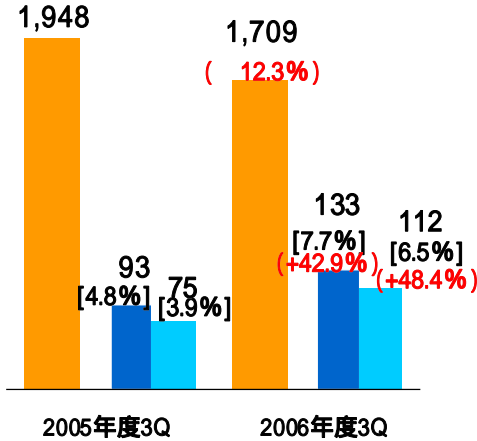
	第3四半期	9ヶ月通算
イメージング	21	318
インフォメーション	5	128
構造改革費用 (営業内) 計	26	446

■ イメージング ソリューション

売上高・営業利益

売上高
 営業利益(構造改革費用抜き)
 営業利益(構造改革費用込み)

単位:億円
 []:営業利益率
 ():前年比



業績のポイント

売上高

売上高:1,709億円(前年比 12.3%)

- カラーフィルム等の販売が後退する中、カラーペーパーはシェアアップ効果等により売上が増加。

営業利益

構造改革費用抜き 133億円(前年比+42.9%)

構造改革費用込み 112億円(前年比+48.4%)

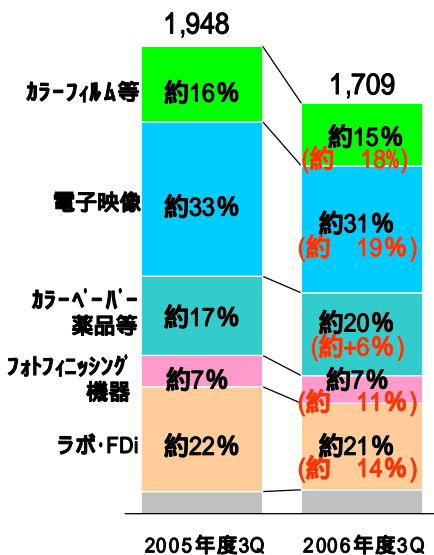
- 構造改革費用、銀価格の高止まり等の影響を構造改革効果等により吸収。

*セグメント間取引消去後

【事業別ハイライト】

売上構成比
 (対前年増減率)

():前年比 単位:億円



カラーフィルム等

- 総需要が減少する中、競合他社の市場撤退を捉えた販促が奏功し、当社の市場シェアは上昇。

電子映像

- 当社第3四半期のデジカメ販売数量は、ワールドワイドで、180万台。
- 顔検出機能を搭載した新製品FinePix「F31fd」「Z5fd」が販売好調
- エントリーモデルを中心とした価格競争が激化。

カラーペーパー・薬品等

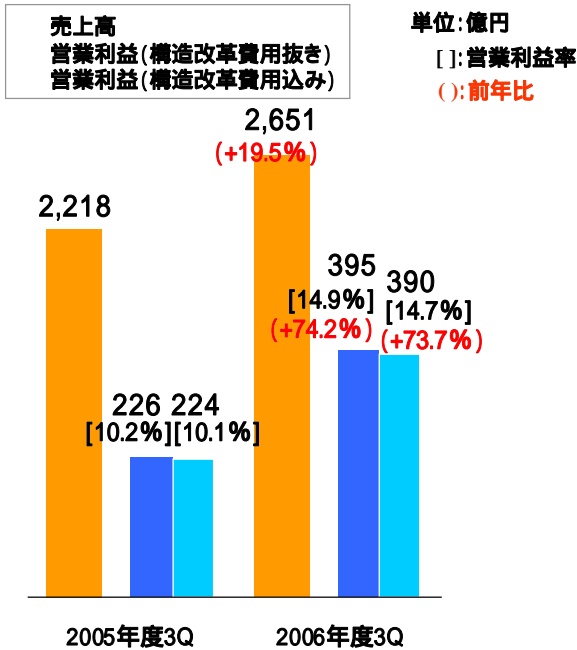
- 主要国での市場シェアアップに加え、デジカメプリントが引き続き増加したことにより、売上が増加。

フォトフィニッシング機器

- デジタルミニラボの販売は、大手取引先への導入が一巡し販売が減少するものの、中小規模店への拡販を図る。

■ インフォメーション ソリューション

売上高・営業利益



業績のポイント

売上高

売上高:2,651億円(前年比+19.5%)

- いずれの事業分野も概ね好調に推移。
- 複数の新規連結子会社の売上が寄与。

営業利益

構造改革費用抜き 395億円(前年比+74.2%)
構造改革費用込み 390億円(前年比+73.7%)

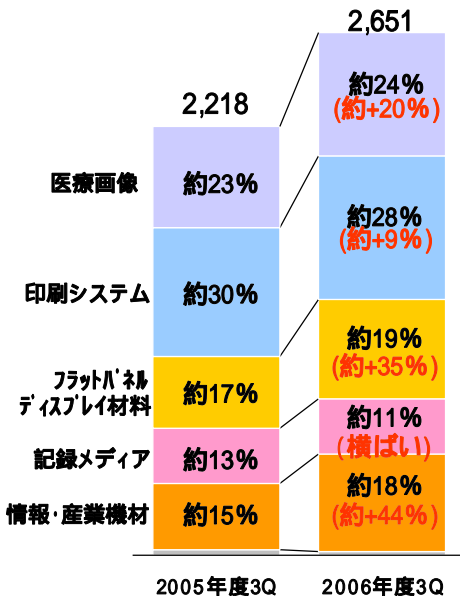
- 銀、アルミ価格の高騰による影響を販売数量増等により吸収。

【事業別ハイライト】

売上構成比
(対前年増減率)

():前年比

単位:億円



医療画像

- FCR、ドライフィルム等の販売が堅調に推移したほか、ネットワークシステム SYNAPSEも好調。
- 内視鏡は豊富な製品ラインナップが国内外に評価され売上を大幅に増加。
- (株)第一ラジオアイソトープ研究所(2007年4月1日より社名を富士フィルムARI7アール七に変更)の売上が寄与。

印刷システム

- 世界的なCTP化の進展によりCTPシステム関連の販売は順調。

フラットパネルディスプレイ材料

- フジタック、WVフィルムは引き続き販売を拡大。
- 2006年10月、富士フィルム九州(株)のフジタック製造用第1工場を稼働。

記録メディア

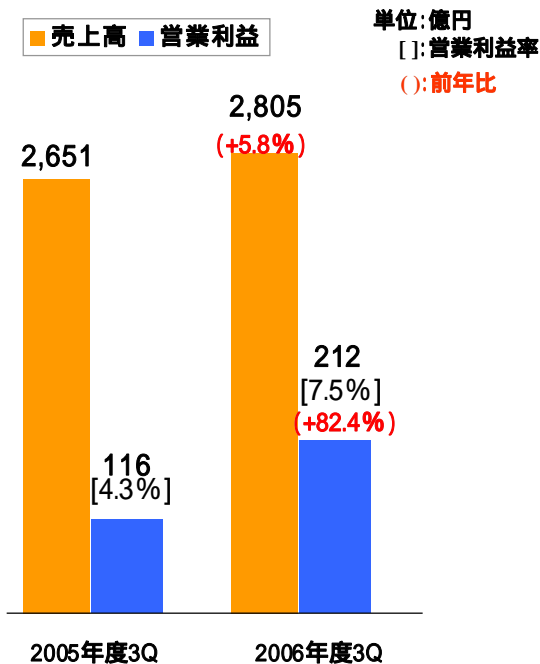
- データメディア分野は大容量のLTO Ultrium 3とIBM社「3592」向けテープが販売好調を維持。
- 世界初700ギガの大容量を実現した「IBM3592拡張容量テープカートリッジ」のIBM社向け出荷を開始し、更なる事業拡大推進。

情報・産業機材

- オートフォーカス化・ズーム化に対応したカメラ付携帯電話用レンズユニットが市場で高い評価を受け売上拡大。
- インクジェットプリンター向けインク材料ビジネスを展開する新規連結子会社 FUJIFILM IMAGING COLORANTS LIMITEDの売上を計上。

■ ドキュメント ソリューション

売上高・営業利益



*セグメント間取引消去後

業績のポイント

売上高

売上高:2,805億円(前年比 +5.8%)

- 引き続きカラーデジタル複合機の販売が欧米向け、アジア・中国地域で好調に推移。

営業利益

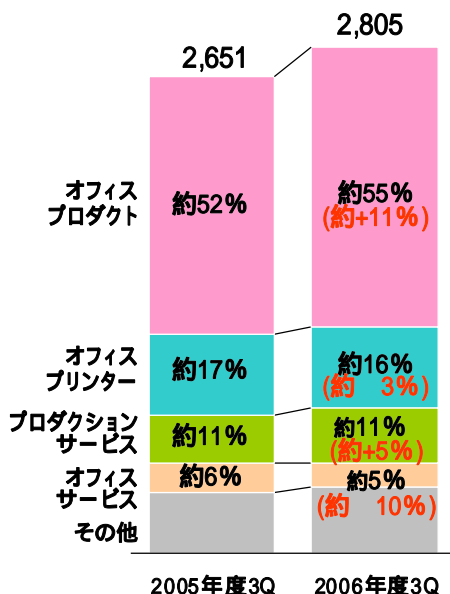
営業利益:212億円(前年比 +82.4%)

- アジア・中国市場での販売体制の強化に伴う「販売費・一般管理費」の増加を、オフィスプロダクト事業製品の販売増、研究開発費の減少などにより吸収。

【事業別ハイライト】

売上構成比
(対前年増減率)

():前年比 単位:億円



オフィスプロダクト

- 国内においてはApeosPort-シリーズの中高速機の新製品を発売し、ラインアップを強化。
- カラー機が欧米向け輸出とアジア・中国地域で引き続き好調。

オフィスプリンター

- 国内OEM供給先の在庫調整の影響を受け、販売台数が減少。自社ブランドのカラー新製品は伸長。

プロダクションサービス

- 国内において市場拡大が見込まれるデジタル印刷市場向け、モノクロ・オンデマンド・バブリッシング・システムを発売し、ラインアップを強化。
- アジア・中国地域でカラー、モノクロともにバブリッシングシステムの販売台数が大幅に増加。

オフィスサービス

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが引き続き伸長。
- 戸籍電子文書管理システムは前年同期の納入の特需により減収。
- 内部統制を支援するソフトウェア「Apeos PE Master 1.2」を発売。

■ 成長事業分野への積極的な設備投資

フラットパネルディスプレイ材料事業



富士フィルム九州㈱

「富士フィルム九州」第2、第3工場を建設

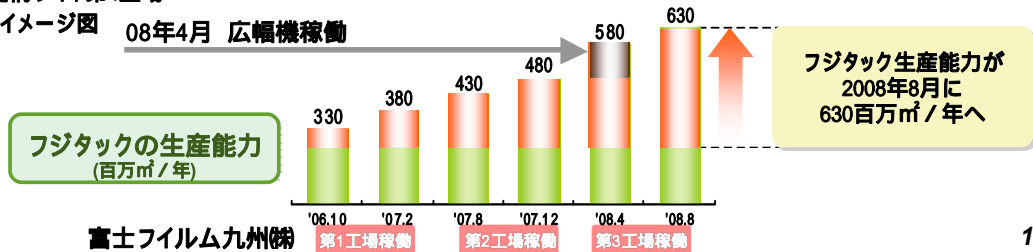
- ・2006年10月、2007年2月に稼働の第1工場に続き、第2、第3工場（設備投資額約700億円）の建設に着手。
- ・富士フィルム九州での「フジタック」生産能力を2008年8月に、300百万㎡/年に引き上げる計画。



神奈川工場足柄サイト第4工場

超広幅「フジタック」の開発・生産新工場の建設を決定

- ・40インチ以上の大型液晶パネル対応の超広幅「フジタック」の開発・製造を担う新工場（設備投資額約240億円）を建設。
- ・2008年4月より稼働し、50百万㎡/年製造する計画。



新規事業分野における取り組み

ライフサイエンス事業

富士フィルムのコア技術の一例

FTD技術
コンセプトの活用

活性酸素の制御

コラーゲンの研究

20万種類の多彩な有機化合物を始めとするユニークな材料技術

イメージング(生命を写す)・分析・解析技術 健康をサイエンスする
(エビデンス/モニタリング/診断技術)

ヘルスケア関連商品

機能性スキンケア化粧品



コア技術と天然の有用成分を組み合わせ、富士フィルム独自のヘルスケア商品を実現

機能性体内ケア食品



(単位:億円)

	2006年度 修正予想		2006年度 当初予想		対当初予想		2005年度 実績		対前年度	
					金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	27,500	100.0%	27,400	+100	+0.4	100.0%	26,674	+826	+3.1
営業利益	4.0%	1,100	2.9%	800	+300	+37.5	2.6%	704	+396	+56.3
税引前利益	3.3%	900	2.9%	800	+100	+12.5	3.0%	796	+104	+13.1
当期純利益	1.5%	400	1.4%	380	+20	+5.3	1.4%	370	+30	+8.1
為替:米ドル :ユーロ		116円 148円		113円 140円	+3円 +8円	- -		113円 138円	+3円 +10円	- -
構造改革及び Slim&Strong 関連費用		1,100 (内、営業利益内 900)		790	+310	-		860	+240	-

12

参考データ

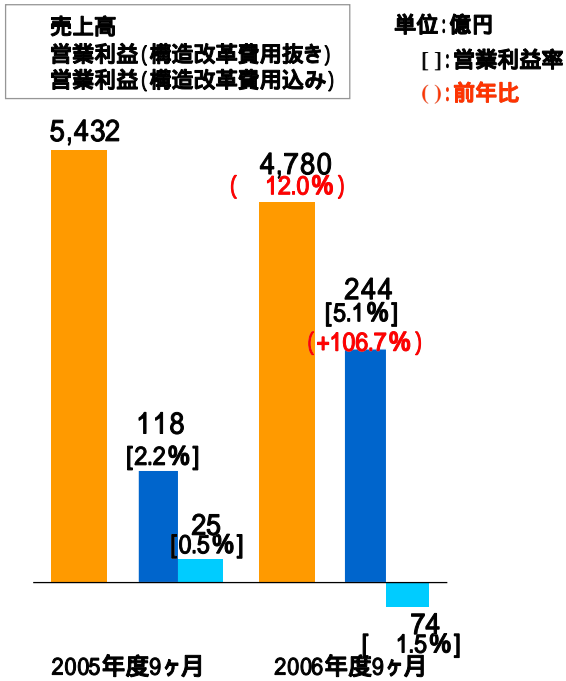
■ 構造改革費用精査による2005年度第3四半期リステート (単位:億円)

	リステート前 '06年1月31日開示		リステート後 '07年1月30日開示	
売上原価		3,685		3,668
レンタル原価		382		382
売上原価	59.7%	4,067	59.4%	4,050
売上総利益	40.3%	2,750	40.6%	2,767
SG&A	27.6%	1,884	27.6%	1,881
R&D	6.6%	449	6.6%	449
構造改革費用	-	-	0.3%	20
営業費用	34.2%	2,333	34.5%	2,350
営業利益	6.1%	417	6.1%	417

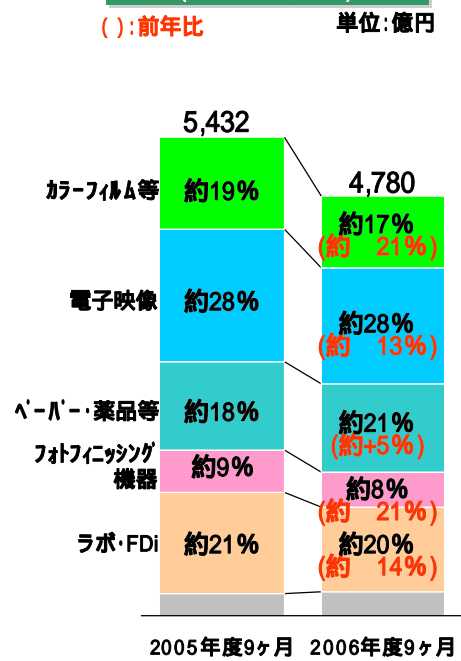
13

■ イメージング ソリューション 9ヶ月累計

売上高・営業利益



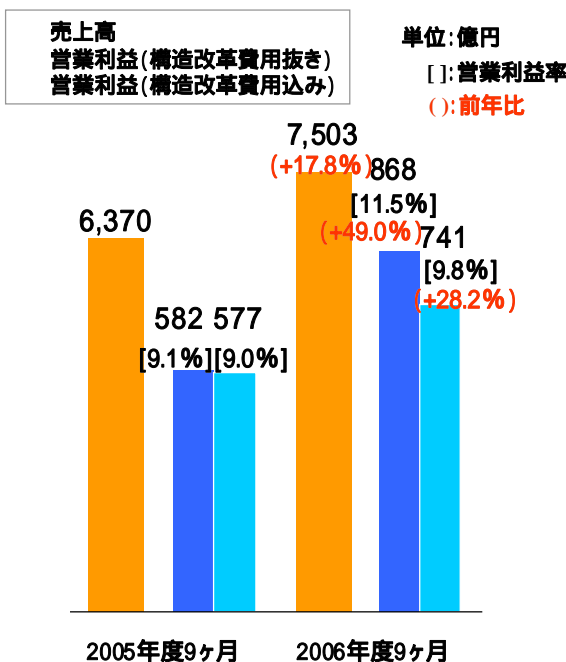
売上構成比
(対前年増減率)



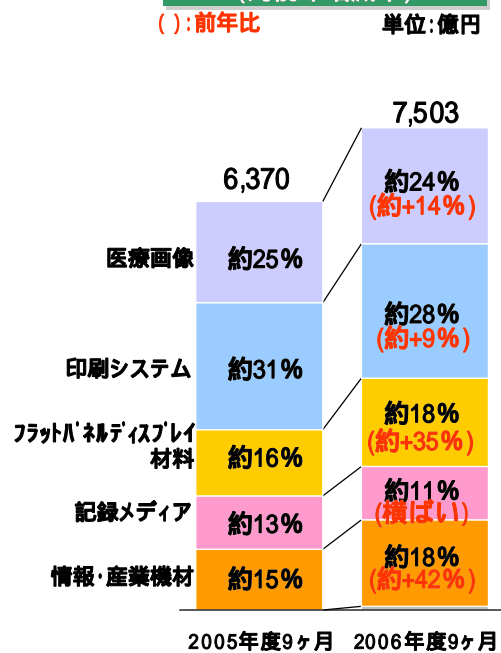
*セグメント間取引消去後

■ インフォメーション ソリューション 9ヶ月累計

売上高・営業利益



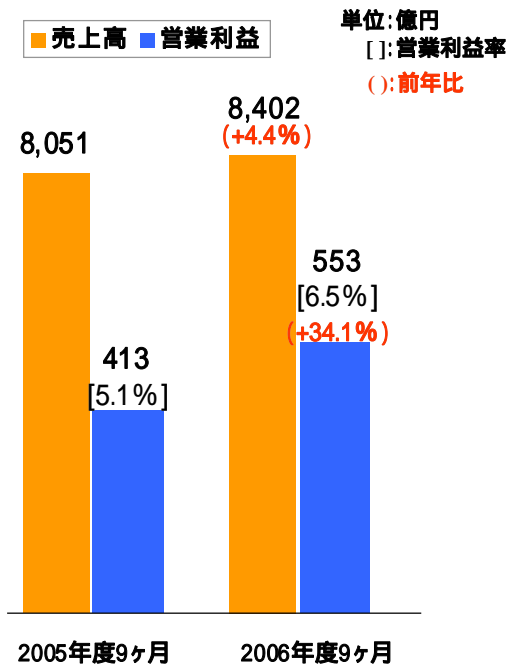
売上構成比
(対前年増減率)



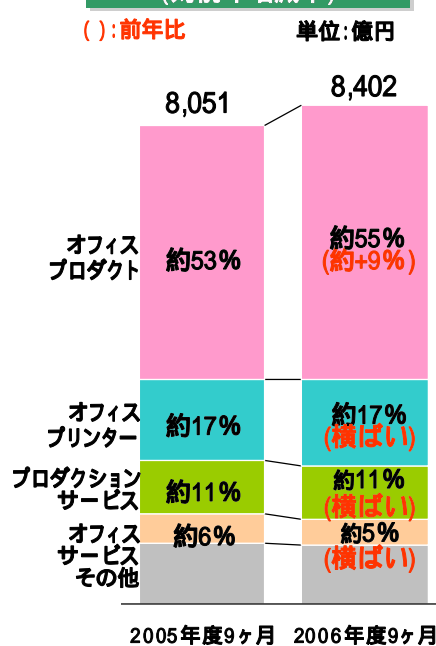
*セグメント間取引消去後

■ ドキュメントソリューション 9ヶ月累計

売上高*・営業利益



売上構成比 (対前年増減率)



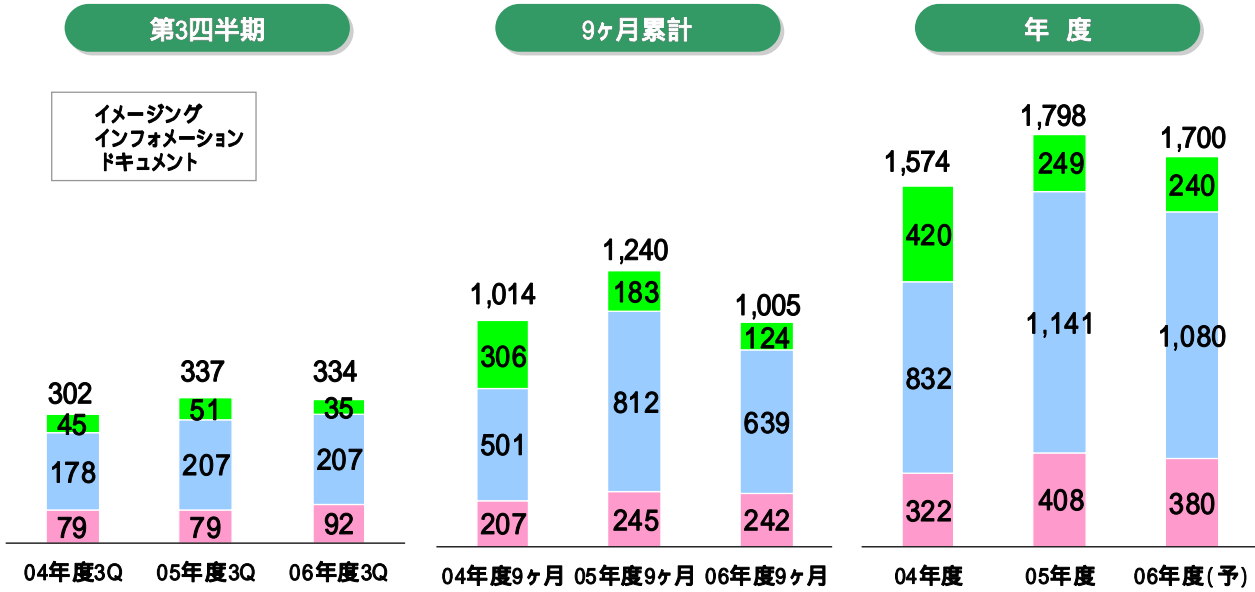
*セグメント間取引消去後

2006年度に実施した主なM&A

年月	分野	主なM&A
'06.7	インクジェット用インク	産業用インクジェットプリンター用ヘッドのトップメーカー 米国Dimatix社を買収し、インクジェット事業を強化
'06.10	グラフィック	オセアニアの印刷製版機材販売代理店の事業を買収し、直販体制を構築
'06.10	メディカル	放射線医薬品のリーディングメーカー (株)第一ラジオアイソトープ研究所の全株式を取得し、メディカル事業領域を拡大
'06.12	メディカル	循環器部門向け医療画像情報システムメーカー Problem Solving Concepts Inc.を買収し、メディカル事業領域を拡大

■ 有形固定資産の設備投資額

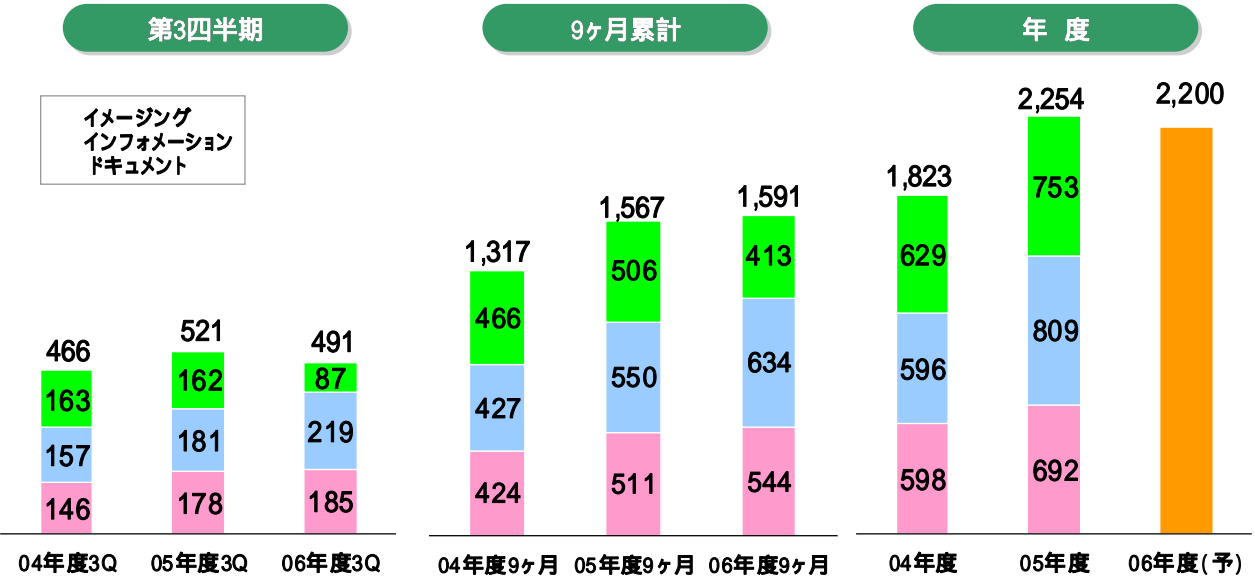
(単位:億円)



ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

■ 減価償却費

(単位:億円)



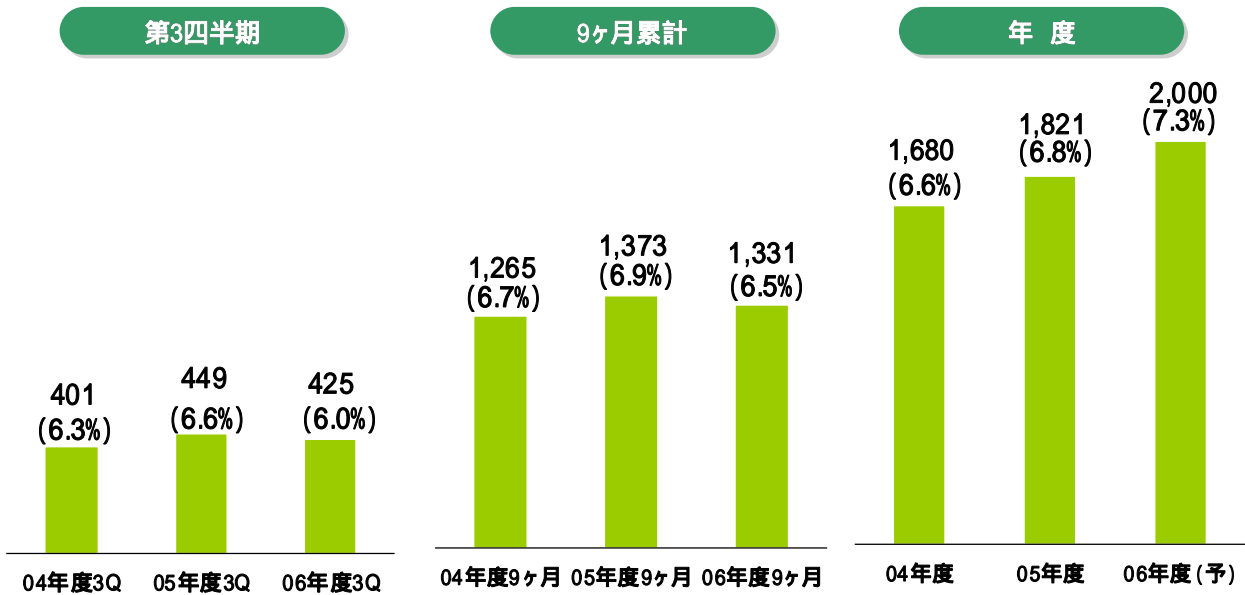
有形固定資産の減価償却費 (単位:億円)

334	359	322	940	1,050	1,079	1,304	1,569	1,500
-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-------	-------

ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

■ 研究開発費

(単位:億円)



()は、売上高に対する研究開発費の比率

■ 為替、人員

● 為替

(単位:円)

	2006年度					2005年度				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	年度(予)	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	年度
米ドル	115	116	118	116	116	108	111	117	112	113
ユーロ	143	147	151	147	148	136	135	139	137	138

● 期末人員

(単位:名)

	2006.12末	2006.9末	2006.6末	2006.3末	2005.12末
連結	77,838	78,411	77,479	75,845	75,606



わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>

本資料は、カラーオンデマンド・パブリッシングシステム「Color DocuTech 60」で印刷しております。